

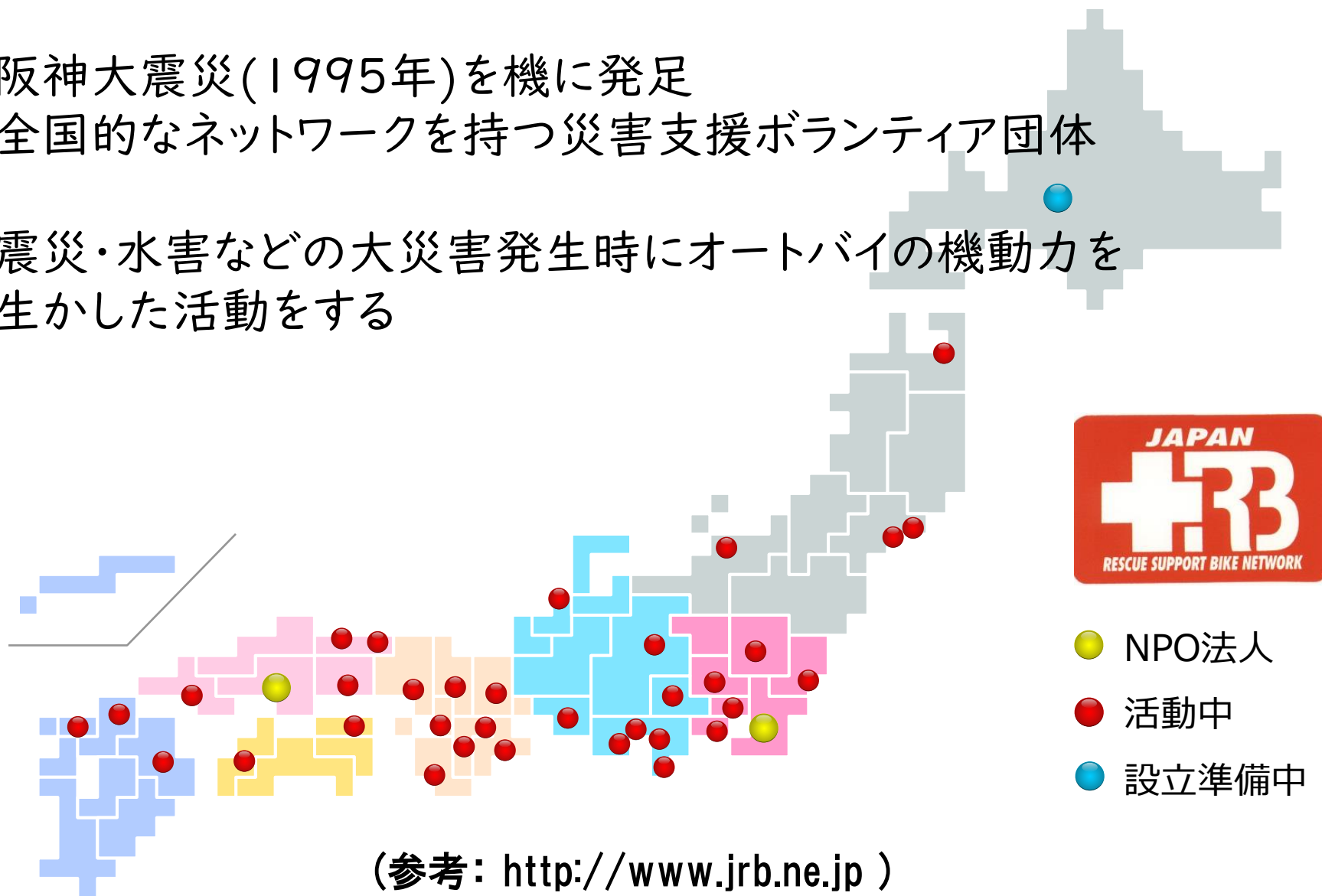
神奈川 レスキューサポートバイク・ネットワークです！



レスキューサポートバイク (RB) とは？

阪神大震災(1995年)を機に発足
全国的なネットワークを持つ災害支援ボランティア団体

震災・水害などの大災害発生時にオートバイの機動力を
生かした活動をする



(参考: <http://www.jrb.ne.jp>)

神奈川RBとは？



【発足】1999年

【活動理念】

バイクの機動力と無線通信を活用して被災地の救援活動や情報活動の支援を行うボランティア団体です。

【活動エリア】 神奈川県および近県

【会員数】 約30名

【主な活動実績】

東日本大震災, 中越沖地震, 中越大震災, 有珠山噴火等

【平時の活動】

地域防災訓練, オートバイ運用訓練, 無線訓練, 他団体との連携活動

神奈川RB宣言

1. 我々は、震災時においてオートバイの機動性を活かして被災地のために救援活動とその支援を行います。
2. 我々は、ボランティア活動を基本とし、活動上発生した傷害は加害被害を問わず自己責任とします。
3. 我々は、自己完結型のボランティアを目指します。
4. 我々の活動は、ボランティア精神をもったあらゆる人々に開かれています。

神奈川RBが大切にしていること



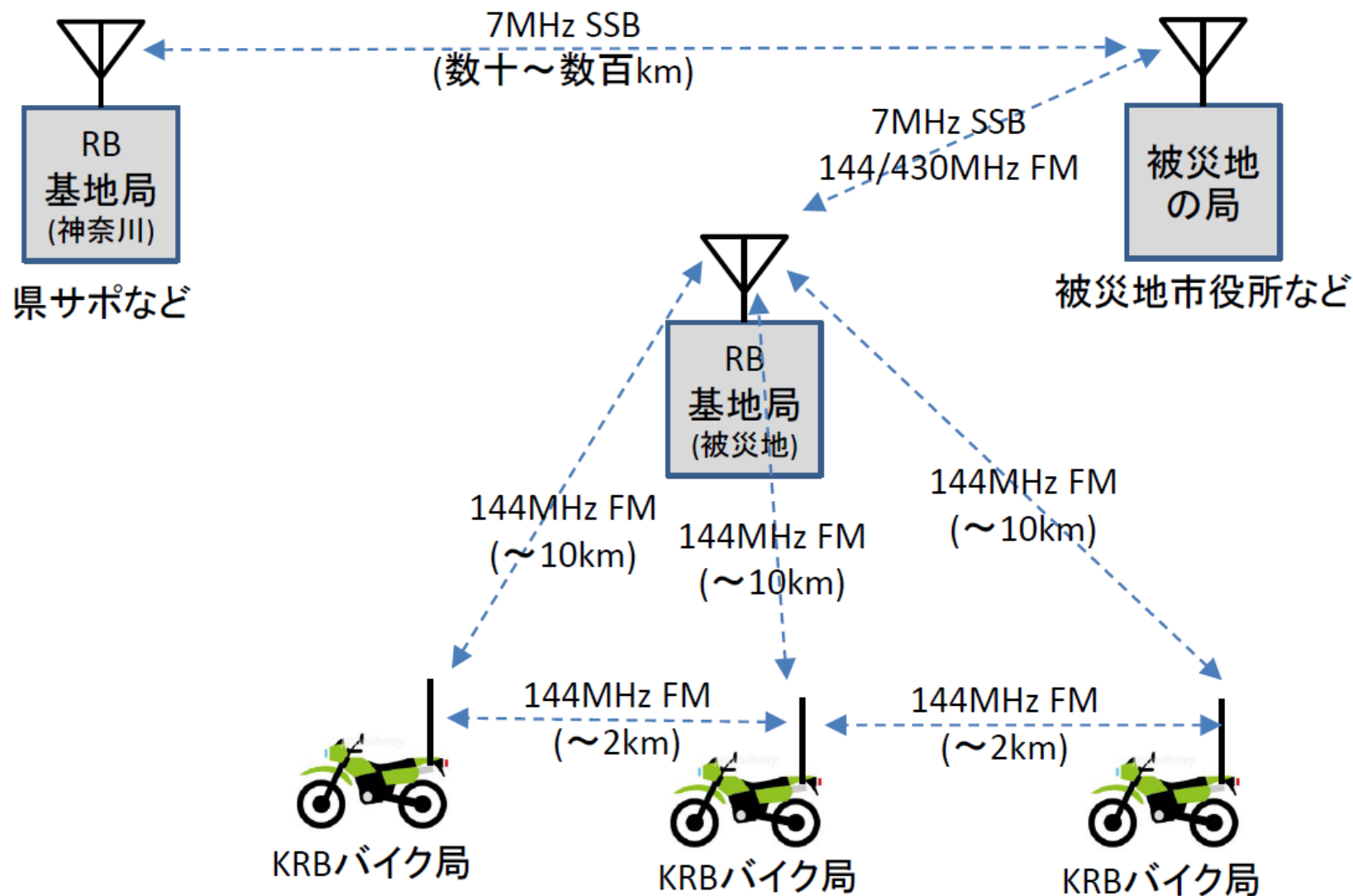
- ・地元神奈川や近県の自治体, 災害支援団体とのネットワーク作り
(何かあったときに自分たちだけでは何もできない)
- ・被災地ではバイクを使うことにとらわれない活動を
(バイクは活動の一手段)
- ・自己完結型活動
(被災地や他団体に与える負担は最小に)
- ・できる範囲で、できる支援を
(ボランティアは力を入れすぎると長続きしない. 継続に価値有)

被災地での無線通信は…



- ・通信インフラが寸断された被災地では、RBメンバーがバイクに無線通信機を搭載して移動することで、通信が行き届かない地域の情報伝達を助けたり、情報収集を行います。
- ・無線は電波の種類によって通信距離が変わったり、障害物によって途切れてしまうことがあります。
そのため、周波数帯や電波形式をいくつか組み合わせたり、他の団体の協力して中継基地を作り、より円滑な通信伝達ができる仕組みを構築し運用しています。

災害支援時のネットワーク構成(想定)





無線通信訓練

神奈川R Bでは独自の無線局を開設（J Q 1 Y O B）。
定期的に座学と実技で、通信や機材の運用トレーニングを実施。



無線通信訓練

バイクやライダーにモバイル型の通信機を搭載。

通信が寸断された孤立地域へ出向いて情報収集、伝達することを想定。

被災地での二輪運転技術は…



- ・被災地では交通手段が限られ、整地走行ができない場所が多くみられるようになります。

荒地でも走行しやすく、コンパクトで機動力のあるバイクはそうした場所での交通手段として有効です。

- ・しかし、デメリットも…

荒地や慣れない土地での走行には技術が必要です。

積載できる荷物量にも制限があります。

日々の走行時からそうした状況を想定、意識したツーリングや技術向上に取り組んでいます。



オフロード走行会

道路が陥没したり崩れたりした被災地を想定して、オフロードコースで走行技術をトレーニング



2011年 宮城県気仙沼における活動

被災地の子どもたちを元気付けるための活動に参加。

現地の被災状況把握、情報収集、物資搬送を担当。



2011年 宮城県気仙沼における活動

タンデムで人材の搬送も実施。この時は現地のレポーターが搭乗。

実際の活動をイメージして…



- ・実際の活動場면을イメージした訓練を企画、参加することでスムーズな活動や連携ができるようにしています。





ビッグレスキューかながわ

年1回開催される合同訓練に参加。

「物資搬送」「情報伝達」「ニーズ発掘」に関する活動を担います。



トリアージ訓練

神奈川県内の二次救急医療機関で実施されるトリアージ訓練に
傷病者役で参加。とてもリアルな演技が必要で、真剣そのものです！



神奈川RBへのご連絡は
<http://kanagawarb.org>

 FaceBook からお気軽にどうぞ!!



神奈川RB_HP_15



神奈川RB_FB_15